



# 宮崎大学学術情報リポジトリ

## University of Miyazaki Academic Repository

ブルゴーニュ公フィリップ・ル・ボンの第二遺言書(1441年) : 後編

メタデータ	言語: jpn 出版者: 宮崎大学教育文化学部 公開日: 2020-06-21 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 中堀, 博司 メールアドレス: 所属:
URL	<a href="http://hdl.handle.net/10458/5691">http://hdl.handle.net/10458/5691</a>

# ブルゴーニュ公フィリップ・ル・ボンの第二遺言書(1441年)

——後編——

中堀博司

**Le second testament du duc de Bourgogne Philippe le Bon (1441) :  
Seconde partie**

**Hiroshi NAKAHORI**

## 1. はじめに

中世後期フランスにおいては、所謂百年戦争が断続するなかで、フランス筆頭諸侯たるヴァロワ家ブルゴーニュ公が独仏間に四代に亘って勢力を拡大し、対立する英仏両王権をも左右する第三極を形成した。その第3代公フィリップ・ル・ボン（善良公、在位1419-1467年）が、47年9か月もの長期に及ぶ治世の間、巧みな婚姻政策と経済的先進地域である低地地方の富を背景に、華々しい宮廷文化を開花させ、公国最盛期を築いたことは周知の通りである。15世紀ヨーロッパにおいて、同公が最も有力かつ著名な君主の一人であったことは言を俟たない。

この半世紀近くにも及ぶ長い治世の間に、フィリップ・ル・ボンは二つの遺言書を遺している。即ち、30歳を目前にした1426年7月4日にスロイスにおいて認められた第一遺言書と、本家であるフランス王家との対立も一応のところ解消し、嫡子シャルル・ル・テメレル（突進公、在位1467-1477年）誕生の結果、家督相続問題にも見通しが見え始めた同公45歳の1441年12月8日に、ルテルにおいて認められた第二遺言書である。

本稿は、このフィリップの第二遺言書を完全に翻刻し、あわせて邦訳することを企図したものであり、その後編を成す。ヴァロワ・ブルゴーニュ公家についての遺言書一般や、このフィリップの第二遺言書の伝来状況等については、前編において説明を行ったので、ここで繰り返すことはせず、以下、本稿（後編）の対象となる第22条から第37条までについての概要のみ説明を付しておきたい<sup>1)</sup>。なお、前編でも掲げた条項内容を示す表だけは、若干加筆修正を施した上で再掲しておく。

## 2. 史料の概要

まず、本後編最初の第22条項では、公フィリップ以降のフランドル伯位継承者はイェルサレムのシオン山にあるフランシスコ会修道院に対し、毎年500ドゥカート金貨を寄贈することが定められた（第22条項<sup>2)</sup>。

### 表 フィリップ・ル・ボンの第二遺言書（1441年12月8日）

※ADN, B 456, no. 15764. Cf. PEIGNOT, G., *Choix de Testaments anciens et modernes, remarquables par leur importance, leur singularité, ou leur bizarrerie, avec des détails historiques et des notes*, Paris, Renouard ; Dijon, V. Lagier, 1829, t. 1, p. 102-114.

※※L.t.=トゥール貨リーヴル F=フラン

条項番号	条項主題	摘要
	[作成場所]	ルテル
	[作成年月日]	1441年12月8日（フィリップ・ル・ボン45歳）
1	霊魂の救済	主に霊魂を委ねる。また、聖母マリア、聖アンドレ、天国の全聖人・聖女への帰依。
2	墓所	ディジョン郊外カルトジオ会シャンモル修道院の父公ジャン・サン・プールの傍らに。父公と公本人の墓および横臥像をできる限り早く製作し、完成させること。
3	負債返済	公の全負債を財産主要部分から早期返済すること。
4	シャンモル・カルトジオ会	シャンモル修道院に対し、命日ミサおよび毎日のミサのために償還定期金100L.t.（基金は国王良貨1,500F）。加えて、公本人、故父母、故第二妃ボンヌ・ダルトワの霊魂救済のミサのために、同じく償還定期金100L.t.（基金も同額国王良貨1,500L）。
5	シャンモル・カルトジオ会	同上シャンモル修道院に対し、償還定期金の購入に充当されるべき基金国王良貨2,000F。これは既に寄付済の2,000Fに加えて与えられ、修道院の維持・修復等に充当。
6	ボース・カルトジオ会	ボース・カルトジオ会修道院に対し、公本人および先祖・子孫の霊魂救済のミサのために償還定期金100L.t.（基金は国王良貨1,500F）。
7	リュニイ・カルトジオ会	リュニイ・カルトジオ会修道院に対し、公本人および先祖・子孫の霊魂救済のミサのために償還定期金60L.t.（基金は国王良貨900F）。
8	シトー修道院	シトー修道院に対し、公本人、公妃、故第一妃・第二妃、先祖・子孫の霊魂救済のミサのために償還定期金100L.t.（基金は国王良貨1,500F）、等々。
9	クレルヴォ修道院	クレルヴォ修道院に対し、償還定期金100L.t.（基金は国王良貨1,500F）。
10	サン・タントワヌ・アン・ヴィエノワ修道院	サン・タントワヌ・アン・ヴィエノワ修道院に対し、償還定期金100L.t.（基金は国王良貨1,500F）。
11	サン・クロード修道院	サン・クロード修道院に対し、シトー修道院同様に、償還定期金100L.t.（基金は国王良貨1,500F）。
12	10司教座	ブザンソン、オタン、シャロン、マコン、オセール、アミアン、アラス、カンブレ、トゥルネ、テルアンヌの10司教座各教会に対し、命日の年ミサのために各300F（計3,000F）。
13	償還定期金について	定期金は各教会に対し与えた基金から償還される。公の相続人も文書をもって、封・裁判にかかわらない定期金として与えること。
14	13公・伯領の4托鉢修道会	ブルゴーニュ公・伯領、シャロレ、マコネ、オセロワ、ブラバント、リンブルフ、フランドル、アルトワ、エノー、ホラント、ゼラント、ナミュールの4托鉢修道会の各修道院に対し、命日ミサのために各20F。
15	アラス近郊の3托鉢修道会	アラス近郊のドミニコ会、フランシスコ会、カルメル会に対し、戦争で破壊された修道院建物の修復のため、それぞれ国王良貨400F、300F、300F（計1,000F）。
16	南部諸地方の施療院等	ブルゴーニュ公・伯領、シャロレ、マコネ、オセロワなど南部諸地方の貧しき教会や施療院等に国王良貨10,000F。
17	北部諸地方の施療院等	ブラバント、リンブルフ、フランドル、アルトワ、エノー、ホラント、ゼラント、ナミュールなど北部諸地方の貧しき教会や施療院等に国王良貨10,000F。

18	家政役人	家政役人に対し、その奉仕に報い、主への祈りのため計20,000F。騎士ほか上級役人に10,000F、下級役人に10,000F。
19	王妃の寡婦産等	王妃に対する贈与・譲渡財産、寡婦産の充当等の効力確認。
20	家政上級役人	侍従ほかの家政役人に対してなした贈与・褒章・役職・定期金等は、与えられた本人存命中のみ所有できる旨。
21	包括相続人	嫡子シャロレ伯シャルルが包括相続人として全遺産を相続。直系相続人がいなければ、妹・甥・従兄弟等の最近親者へ。

(以上第21条項までは「前編」の対象)

22	シオン山	フランドル伯位継承者は、シオン山（モン・シオン）のフランシスコ会修道士らに対し、500トゥカート金貨。
23	非嫡出子 コルネイク	非嫡出子（長子）コルネイクおよびその子孫に対し、ブラバント、フランドル、アルトワ、エノー、ホラント、ゼラントおよびナミュールから国王貨幣6,000Fの世襲定期金。
24	非嫡出子 アントワース	非嫡出子アントワースおよびその子孫に対し、ブラバント、フランドル、アルトワ、エノー、ホラント、ゼラントおよびナミュールから国王貨幣2,500Fの世襲定期金。
25	非嫡出女子 マリオン	非嫡出女子マリオンに対し、婚資として国王貨幣15,000F。
26	ピエール・デュシェーヌ邸在住の別の非嫡出女子	ブラバント収入役Pierre du Chesne邸にいる別の非嫡出女子に対し、婚資として国王貨幣12,000F。
27	在フランドルの別の非嫡出女子	在フランドルの別の非嫡出女子に対し、国王貨幣10,000F。
28	金羊毛騎士団	金羊毛騎士団について、建物の完成や旧騎士らのための定期金取得など残されたすべてのことを完遂。
29	ドル大学	ドル大学に1名の教師と12名の貧しき学生のための学寮創設。そのために最大10,000F。
30	尚書ニコラ・ロラン	尚書ニコラ・ロランおよびその相続人に対し、モンミレイの城塞等。但し、10,000サルユ金貨ないしは15,000Fでの買い戻しは可能。
31	旧トネール伯財産	オレンジ公が主張する旧トネール伯財産のシャテルブラン、オルジュレ等に関して、ドル高等法院での審理の可能性。
32	嫡子シャルルの後見	嫡子シャルルが未成年の場合の後見人：公妃イザベル（筆頭）、トゥルネコ教ジャン・シュヴロ、プザンソン大司教カンタン・メナル、カンブレ司教ジャン・ド・ブルゴーニュ、尚書ニコラ・ロラン、筆頭侍従クワイ領主アントワース、ブルゴーニュ元帥フリブル伯ジャン、シャルニイ領主ピエール・ド・ボフルモン、エノー・バイイたるジャン・ド・クワイ、ルベ領主ジャンおよびサント領主ユーク・ドラノイ、ブラバント尚書ジャン・ボン、フランドル高等バイイたるコラル・ド・コミーヌ、エチエンヌ・アルムニエほか。
33	遺言執行人	遺言執行人：公妃イザベル、オセール司教ロラン・ピニオン（遺言執行のため国王貨幣1,000F、ピニオン不在時はセリンブリア司教シモン・ド・ルースがその任にあたり、同500F）、トゥルネコ教ジャン・シュヴロ、プザンソン大司教カンタン・メナル、尚書ニコラ・ロラン、筆頭侍従クワイ領主アントワース、ブルゴーニュ元帥フリブル伯ジャン、サント領主ユーク・ドラノイ。また、上記のトゥルネコ教以下には100サルユ金貨相当までの宝石。
34	遺言の執行	当該遺言書の公表および執行について、ローマ教皇庁控訴院の教会裁判権とパリ高等法院の世俗裁判権への服従。
35	遺言の執行（続き）	直系嫡出相続人なく公本人および嫡子シャルルが亡くなった場合、当該遺言書に従って忠実に遺言執行する旨。それに異論を唱える者がいる場合、相続権剥奪。
36	遺言の執行（続き）	当該遺言書による遺贈が日來の命令を退け、すべてに優先される旨。
37	当該遺言の効力	当該遺言書が正式な遺言書として効力をもち、その内容が完遂されなければならない旨。

次に、公フィリップの非嫡出子コルネイユおよびアントワーヌに対し、ブラバント、フランドル、アルトワ、エノー、ホラント、ゼラントおよびナミュールの北部諸所領から、それぞれ国王貨幣6,000フラン（= F）と2,500Fの世襲定期金を設定することが規定されている（第23～24条項）。一方、非嫡出の女子マリオン他2名に対しても、国王貨幣10,000Fから15,000Fまでの婚資が贈与されることとされた（第25～27条項）<sup>3)</sup>。

また、公フィリップが創設した金羊毛騎士団については、特に都市ディジョンにおけるその建造物等の完成と旧騎士団員に対する定期金設定が定められた（第28条項）。同様に同公フィリップが創設したブルゴーニュ伯領のドル大学については、1名の教師および12名の貧しき学生のために、都市ドルに学寮を設置し、10,000Fまで贈与することが定められている（第29条項）。

さらに、公フィリップの宰相として公国で最も重要な地位にあった尚書ニコラ・ロランに対して、同公がロランに与えたモンレイの城塞および城主支配権は、その附属財産とともに公フィリップの直系子孫による買い戻し可能の規定が定められた（第30条項）。他方、かつてトネール伯から没収した財産については、訴訟での解決策が規定されている（第31条項）。

最後に、公フィリップが早世し、嫡子シャルルが未成年のまま公位を継承することになった場合の後見人と、本第二遺言書の執行人が選定され（第32～33条項）、遺言の執行とその効力についての規定がなされている（第34～37条項）。

第二遺言書後半部の概略は以上の通りであるが、嫡子シャルルの後見人と本遺言書の執行人についてのみ今少し詳しく触れたのちに、本第二遺言書の未刊行史料からの翻刻と邦訳を試みたい。

### 3. 嫡子シャルルの後見人と遺言執行人

#### (a) 嫡子シャルルの後見人（第32条項）

- ①（筆頭かつ主たる後見人）公妃イザベル［ド・ポルチュガル］（遺言執行人①）
  - ②トゥルネ司教［ジャン・シュヴロ］（遺言執行人③）
  - ③ブザンソン大司教［カンタン・メナール］（遺言執行人④）
  - ④カンブレ司教［ジャン・ド・ブルゴーニュ］
  - ⑤尚書ニコラ・ロラン（オテューム領主）（遺言執行人⑤）
  - ⑥筆頭侍従クロイおよびランティ領主アントワーヌ（遺言執行人⑥）
  - ⑦ブルゴーニュ元帥フリブールおよびヌシャテル伯ジャン（遺言執行人⑦）
  - ⑧シャルニイおよびモリノ領主ピエール・ド・ボフルモン
  - ⑨エノー・バイイのジャン・ド・クロイ
  - ⑩ルベ領主［ジャン］
  - ⑪サント領主ユーク・ド・ラノイ（遺言執行人⑧）
  - ⑫ブラバント評議官ジャン・ボン［ヤン・ボン］
  - ⑬フランドル高等バイイのコラール・ド・コミーヌ
  - ⑭ブルゴーニュ諸高等法院長エティエンヌ・アルムニエ
- ※その他

(b) 公フィリップ第二遺言書の遺言執行人 (第33条項)

- ① (主たる遺言執行人) 公妃イザベル [・ド・ポルチュガル] (嫡子シャルル後見人①)
- ② 公フィリップの聴罪司祭オセール司教 [ロラン・ピニョン]
- ※同不在の場合、公妃イザベルの聴罪司祭セリンブリア (現トルコのシリウリ) 司教 [シモン・ド・ルース]
- ③ トウルネ司教 [ジャン・シュヴロ] (嫡子シャルル後見人②)
- ④ ブザンソン大司教 [カンタン・メナール] (嫡子シャルル後見人③)
- ⑤ 尚書オテューム領主ニコラ・ロラン (嫡子シャルル後見人⑤)
- ⑥ 評議官かつ筆頭侍従クロイおよびランティ領主アントワース (嫡子シャルル後見人⑥)
- ⑦ ブルゴーニュ元帥フリブールおよびヌシャテル伯ジャン (嫡子シャルル後見人⑦)
- ⑧ サント領主ユーク・ド・ラノイ (嫡子シャルル後見人⑧)

以上のように、本第二遺言書の遺言執行人は、公フィリップ (ないしは公妃イザベル) の聴罪司祭を除いて、すべて後継者シャルルの後見人として名を列ねている者たちである。公妃イザベル以下、側近中の側近の聴罪司祭、南北を代表する (大) 司教2名、文官、武官および家政のトップである尚書・元帥・筆頭侍従の3名、そして寵臣の一人サント領主といった顔ぶれである。後継者シャルルの後見人には、これらにさらに公の重要な役人らが付け加えられた。

4. 史料原文と試訳

史料「ブルゴーニュ公フィリップ・ル・ボンの第二遺言書」 (後編)<sup>4)</sup>

[22] 同じく、余は以下のように望む。即ち、余よりも長く生きたならば、余の上述の息子シャロレ伯 [シャルル・ル・テメール] と、相継いでフランドル伯となるであろうフランドル伯領における余の他のすべての相続人および継承者は、毎年続けて自らの出費において金額500ドゥカート金貨を、(イェルサレムの) シオン山のフランシスコ会修道士らに対し<sup>5)</sup>、同シオン山の修道院および修道士全体のために与え送らなければならない。この修道士らに対し、上述の金額を毎年続けて遺贈し、これについて余ははっきりと永続的に余の上述のフランドル伯およびすべての余の同伯領における継承者らに負担させる。(Item, voulons que n[ost]redit filz le conte de Charrolois s'il nous survit et consequem[m]ent tous noz autres heritiers et successeurs [/58]<sup>6)</sup> en la conté de Flandres qui s[er]ont contes de Flandres, soient tenuz de donner et envoyer ch[asc]un an perpetuelment a leurs frais et despens la som[m]e de cinq cens [= 500] ducas d'or aux religieux cordeliers du mont de Syon pour et au prouffit du couvent et des religieux en com[m]un [/59] dudit mont de Syon, ausquelz donnons et laissons ladicté som[m]e par ch[asc]un an p[er]petuelment et de ce chargons expressement et a tousjours n[ost]redicte conte de Flandres et tous et ch[asc]uns noz successeurs en icelle conté.)

[23] 同じく、余の非嫡出子コルネイユに対し<sup>7)</sup>、この者が他所に何らかの財産を有していようと、余は国王貨幣金額6,000Fの世襲定期金を遺贈する。この定期金は、この者に対し余のこちら側のブラバント、フランドル、アルトワ、エノー、ホラント、ゼラントないしはナミュー

ルの諸地方において、余の他界後1年以内にしっかりと確実に充当されることを望む。この6,000Fの定期金には、今後この者が余の他界前に以下のように余から有するか、有するであろう土地および領主領の定期金ならびに収入が含まれ、余の他界の日にこの6,000Fの定期金の残りは、余の上述の遺言執行人がこの者に対し、実際に余の上述の執行財産から至らしめることを望み欲する。但し条件として、この者が上述のように正式な結婚による直系相続人なく他界した場合、上述の定期金とそのための充当分は、余の然るべき相続人ないしは相続人らに帰する。また、この定期金について恐らく然るべくこの者に与えられた場合、余の領主領および直轄領のいかなる土地も、余の然るべき相続人ないしは相続人らはこれを回収することができる。その代わりに、この者が最初に与えられたであろうものと同様に、余の上述の諸地方に設定され帰する、余の領主領の直轄領ではない相応の土地が予め他所に与えられる。(Item, a Cornille n[ost]re filz bastard, non obstant quelque [/60] chevance qu'il ait d'autre part, donnons et laissons six mille [= 6,000] frans monnoie roial de rente a heritaige, laquelle rente lui voulons estre baillee et assignee bien et seurement en noz pays de pardeca de Brabant, Flandres, Artois, Haynnau, Hollande, Zellande ou Namur dedens ung an [/61] apres n[ost]re decez, esquelles six mil [= 6,000] frans de rente voulons et entendons estre comprinses les rentes et revenues des terres et seignouries que desmaintenant il a ou aura de nous cy apres avant n[ost]re trespas et ce qui restera d'icelles six mil [= 6,000] frans de rente au jour de n[ost]redit [/62] trespas nosdiz executeurs lui parfourniront realment et de fait des biens de n[ost]redicte execucion ainsi que dit est et par condicion que, s'il aloit de vie a trespas sans hoir de son corps en loial mariage com[m]e dit est, ladicte rente et assignac[i]ons baillees pour icelle retourneroient a [/63] n[ost]re heriter ou heritiers qu'il appartendroit et aussi que, se pour la dicte rente lui estoient baillees com[m]e vraisemb[lab]lement le convendra, aucunes terres de n[ost]re seignourie et demaine n[ost]re heritier ou heritiers qu'il appartend[ra] pourront recouvrer, en lui baillant p[re]mierem[ent]t [/64] autant de terre autrepas qui ne soit point de demaine de noz seignouries aussi bien assise et aussi bien revenant en noz pays dessusdiz, com[m]e icelles qui premiers baillees lui auroient esté.)

[24] 同じく、余の非嫡出子アントワーンヌに対し<sup>8)</sup>、同様に国王貨幣金額2,500Fの世襲定期金をこの者とその正式な結婚による直系相続人らのために遺贈する。この定期金は、この者に対し余のこちら側のブラバント、フランドル、アルトワ、エノー、ホラント、ゼラントないしはナミュールの諸地方において、余の他界後1年以内にしっかりと確実に充当されることを望む。但し条件として、この者が上述のように正式な結婚による直系相続人なく他界した場合、上述の定期金とそのための充当分は、余の然るべき相続人ないしは相続人らに帰する。また、この定期金について恐らく然るべくこの者に与えられた場合、余の領主領および直轄領のいかなる土地も、余の然るべき相続人ないしは相続人らはこれを回収することができる。その代わりに、この者が最初に与えられたであろうものと同様に、余の上述の諸地方に設定され帰する、余の領主領の直轄領ではない相応の土地が予め他所に与えられる。(Item, a Anthoine n[ost]re filz bastard donnons et laissons semblablement [/65] deux mille et cinq cens [= 2,500] frans monnoie roial de rente a heritaige pour lui et les hoirs descendans de son corps en droicte ligne et en loial mariage, laquelle rente lui voulons estre baillee et assignee bien et seurement en noz pays de p[ar]deca de Brabant, Flandres, Artois, Haynn[au], [/66] Hollande, Zellande ou Namur dedens ung an apres

n[ost]re decez et par condicion que, s'il aloit de vie a trespas sans avoir hoir de son corps en droite ligne et loial mariage com[m]e dit est, ladicte rente et les assignacions baillees pour icelle retourneront a n[ost]re h[er]itier [67] ou heritiers qu'il appartendra et aussi que, se pour ladicte rente lui estoient baillees com[m]e vraisemb[lab]lement le convendra faire, aucunes terres de n[ost]re seignourie et demaine n[ost]re heritier ou heritiers qu'il appartendra les pourront recouvrer, en lui baillant autant [68] de terre premierement autrepert qui ne soit point du demaine de noz seignouries aussi bien assise et aussi bien revenant en noz pays dessusdiz, com[m]e celles que premiers baillees lui auront esté.)

[25] 同じく、余の非嫡出女子マリオンに対し<sup>9)</sup>、国王貨幣金額15,000 Fを一度にその結婚のため遺贈する。定期金および遺産のすべてないしは少なくとも大部分がこの者とその側近の者らのために用いられる。(Item<sup>10)</sup>, a Marion n[ost]re fille bastarde, donnons et laissons la som[m]e de [69] quinze mille [= 15,000] frans monnoye roial pour une fois pour son mariage et pour estre employez le tout ou au moins la plus grant partie en rentes et heritaiges au prouffit d'elle et des siens.)

[26] 同じく、現在、余のブラバント収入役ピエール・デュ・シェーヌの許に滞在する余の別の非嫡出女子に対し<sup>11)</sup>、国王貨幣金額12,000 Fを同様にその結婚のため遺贈する。定期金および遺産のすべてないしは少なくとも大部分がこの者とその側近の者らのために用いられる。(Item, a n[ost]re autre fille bastarde qui est demourant a p[rese]nt en l'ostel de Pierre du Chesne n[ost]re [70] rentmaistre de Brabant, donnons et laissons pareillement la som[m]e de douze mille [= 12,000] frans monnoie roial pour son mariage et pour estre employez le tout ou au moins la plusgrant partie en rentes et heritaiges au prouffit d'elle et des siens.)

[27] 同じく、現在、フランドルに滞在する余の別の非嫡出女子に対し<sup>12)</sup>、同様に国王貨幣金額10,000 Fを一度にその結婚のため遺贈する。定期金および遺産のすべてないしは少なくとも大部分がこの者とその側近の者らのために用いられる。(Item, a n[ost]re autre fille bastarde [71] a p[rese]nt demourant en Flandres donnons et laissons pareillement la som[m]e de dix mille [=10,000] frans pour une fois pour son mariage et pour esté[sic] employez le tout ou au moins la plusgrant partie en rentes et heritaiges au prouffit d'elle et des siens.)

[28] 同じく、余が命じてこの間準備してきた余の金羊毛騎士団については<sup>13)</sup>、その基金、建物およびその他の命令がまだ全く十分に充たされても実現されてもおらず、同様に余の都市ディジョンにおいて場所および敷地を取得し、そこに建物を造り、また名声を馳せた12名の貧しき旧騎士らの生活と身分のための定期金を獲得させる余の命令も実現されていない。余は余が他界する前に上述の基金および諸命令一切を実現するという恩寵を主が望まれるかどうかはわからないため、余は以下のように望み命じる。即ち、余の他界時に建物や定期金・遺産の取得等々について行われず、実現されぬままのものは、余ないしは余の上述の騎士団総会によって命じられたように、余の上述の遺言執行人が見出し、余の執行財産から完成され、実現されること。(Item, et au regard [72] de n[ost]re ordre de la thoison d'or que avons ordonnee et mise sus depuis certain temps enca<sup>14)</sup> et dont ne sont encores assouviés ne accomplis du tout les fondacions, edifices et autres ordonn[ances] et mesmement l'ordonnance par nous faicte

d'acquérir en n[ost]re ville de Dijon [/73] lieux et places et y faire edifices et aussi acquérir rentes pour le vivre et estat de douze povres anciens chevaliers de bonne renom[m]ee, et pource que ne savons s'il plaira a Dieu nous faire ceste grace que avant n[ost]re decez puissions accomplir toutes lesdictes [/74] fondacions et ordonnan[ces], nous voulons et ordonnons que ce que en restera a faire et accomplir au temps de n[ost]re decez, tant en edifices, acquisitions de rentes et heritaiges que autrement soit parfait et accompli des biens de n[ost]re execucion, ainsi et par la maniere [/75] que nosdiz executeurs trouveront estre ordonné par nous ou chappitre de n[ost]re dit ordre.)

[29] 同じく、さらに以下のように望む。即ち、余の都市ドルにおいて、このドル大学にかかわる附属施設（余の娘）の財産とその増強のため<sup>15)</sup>、余の出費によって余の執行財産から、余の上述のブルゴーニュ公領および伯領の諸地方を出自とする1名の教師と12名の貧しき学生のため、一つの学寮（college）を創設する。この者らの生活のために、永続的に定期金および収入が購入され、またその住居、家および建物のため、余の上述の遺言執行人の裁量と助言により一度に金額10,000Fまで〔充当される〕。（Item<sup>16)</sup>, voulons en outre que en n[ost]re ville de Dole pour le bien et augmentacion de n[ost]re fille de l'univ[er]sité dudit Dole<sup>17)</sup> soit a noz despens et des biens de n[ost]re execucion fondé ung<sup>18)</sup> college [/76] pour ung maistre et douze povres escoliers de la nacion de nosdiz pays de nosdiz duchié et conté de Bourgoingne, pour le vivre desquelz soient achatees rentes et revenues a tousjours et aussi pour leurs demeures, maisons et edifices a la discrecion et par l'avis de nosd[iz] [/77] executeurs jusques a la som[m]e de dix mille [= 10,000] frans pour une fois et au dessoubz<sup>19)</sup>.)

[30] 同じく、余がかつて作成した〔1426年7月4日付〕遺言書により、また、余が存命中に余の親愛にして忠実なる騎士かつ尚書たるオテューム領主ニコラ・ロランに対し認め合意した他の文書により、同様にこの者に余が騎士団を委ねたことに鑑み、余はこの者に対し、余の他界後すぐにこの者およびその相続人により永続的にそれを享受できるよう、余のブルゴーニュ伯領におけるモンミレイ（Montmirey）の城塞、プールおよび城主支配権を、何であれエティエンヌ貨500£の定期金評価額に値するその附属財産とともに与え譲渡した<sup>20)</sup>。これは、余の上述の伯領において他の上級裁判権者が有した特権である、上中下すべての裁判権および領主権を伴うものである。但し条件として、男女を問わず、余の直系の嫡出相続人が望む場合、この余の尚書およびその親族からこれを買戻すことができる。その代わりに、これらのことが余の上述の尚書が余から得た文書にはっきりと宣告されている通り、この者に対し実際に一度に金額10,000サリュ金貨ないしは15,000Fが与えられる。余は、確かな分別とこの余の尚書が余に日々なしてきた良き奉仕に鑑み、この当該遺言書により、上述の贈与および譲与、並びに、余の上述の尚書が有する上述文書とこれに言及する余の最初の遺言書の条項におけるその内容一切を承認、批准し確認する。さらに必要ならば、この余の当該遺言書によってこの者に対し上述の贈与および譲与をなす。（Item, et pour ce que par n[ost]re testament autre fois fait et aussi par autres l[ett]res par nous passees et accordees entre vizz a n[ost]re treschier et feal ch[eva]ll[ie]r et chancelier mess[ire] Nicolas Rolin seign[eur] [/78] d'Authume et mesmement pour consideracion que lui baillames l'ordre de chevalerie lui avons donné et transporté pour en joir tantost apres n[ost]re decez par lui et ses hoirs a tousjours n[ost]re chastel, bourg et

chastellenie de Montmirey en n[ost]re conté de Bourg[oing]ne [/79] avec ses apparten[ances] quelzconques en l'extimacion de cincqens [= 500] livres esteven[antes]<sup>21)</sup> de<sup>22)</sup> rente en toute justice et seignourie haulte, moienne et basse et en telles prerogatives que ont les autres haulx justiciers en n[ost]redit conté, par condicion que les hoirs legitimes de n[ost]re corps soient [/80] masles ou femelles le pourront rachater toutes et quantesfois qu'il leur plaira d'icellui n[ost]re chancelier ou des siens, en lui baillant realment et de fait a une fois la som[m]e de dix mille [= 10,000] salus d'or ou de quunze mille [= 15,000] frans, ainsi que ces choses sont declairees plusaplain es l[ett]res [/81] que n[ost]redit chancelier en a de nous, nous, de n[ost]re certaine science et pour consideracion des bons s[er]vices que icellui n[ost]re chancelier nous fait journalment, louons, ratiffions et confermons par cest n[ost]re p[rese]nt testament lesdiz don et transport et tout le contenu esd[ic]ites [/82] l[ett]res que en a n[ost]redit chancelier et en la clause de n[ost]re premier testament de ce faisant mencion, et d'abondant entant que mestier est par icellui n[ost]re p[rese]nt testament lui faisons lesdiz don et transport.)

[31] 同じく、さらに余は、余の従兄弟オランジュ公がかつてトネール伯に属し、余が余の上述の息子シャロレ [伯シャルル] に与えた、余のブルゴーニュ伯領におけるシャテルブラン、オルジュレその他の土地の権利を主張していることを聞き及んだため<sup>23)</sup>、上述の [オランジュ] 公は何ら権利を有さないと考えるとはいへ、余は以下のように望み命じる。即ち、このオランジュ公には、もしこれを余のドル高等法院に請求するならば裁判の道が開かれており、この高等法院を開廷する者らにより、余の上述の息子ないしはその代理人、そして召喚すべき他の者らは、召喚・聴取され、裁判と法的釈明がなされる。(Item, en outre pour ce que avons entendu que le [/83] prince d'Orenges n[ost]re cousin pretend avoir aucun droit es terres de Chastelbelin, Orgelet et autres en n[ost]re conté de Bourg[oing]ne qui furent au conte de Tonnerre et lesquelles avons donné a n[ost]redit filz de Charrolois, combien que tenons que ledit prince ny [/84] ait aucun droit, voulons et ordonnons que a icellui prince d'Orenges soit ouverte la voye de justice s'il le requiert en n[ost]re parlement de Dole et par les gens qui tendront icellui parlement appelez et oyz n[ost]redit filz ou son procureur et autres qui feront [/85] a appeller soit faicte et administree justice et raison.)

[32] 同じく、余が余の上述の息子シャロレ伯シャルルを未成年のまま残し他界することがあれば、余の諸地方、土地および領主領における統治の必要に備えるため、余はまず余の上述の息子の人格 [形成] について以下のように望み命じる<sup>24)</sup>。即ち、同伯は、その未成年の間、十分な年齢に達するまでは、余のいとも親愛なる伴侶でその母である公妃 [イザベル] とともに他所ではなく、余の諸地方、土地、領主領において養育されること。そしてその上述の未成年の間、この余の諸地方、土地および領主領の統治については、以下のように望み命じる。即ち、筆頭かつ主たる後見人として余の上述の伴侶 [イザベル]<sup>25)</sup> 以下、今ここに立ち会う余の親愛にして忠実なるトゥルネオ司教<sup>26)</sup>、プザンソン大司教<sup>27)</sup> およびカンブレ司教<sup>28)</sup>、[立ち会ってはいないが] 余の尚書オテューム領主 [ニコラ・ロラン]<sup>29)</sup>、余の従兄弟で筆頭侍従たるクロイおよびランティの領主アントワーヌ<sup>30)</sup>、余の従兄弟でブルゴーニュ元帥たるフリブールおよびヌシャテルの伯ジャン<sup>31)</sup>、シャルニィおよびモリノの領主 [ピエール・ド・ポフルモン]<sup>32)</sup>、余の従兄弟でエノー・バイイたるジャン・ド・クロイ<sup>33)</sup>、ルベ領主 [ジャン]<sup>34)</sup>

およびサント領主 [ユエグ・ド・ラノイ]<sup>35)</sup>、余のブラバント評議官ジャン・ボン<sup>36)</sup>、余のフランドル高等バイイたるコラル・ド・コミーズ<sup>37)</sup>、余のブルゴーニュ諸高等法院の法院長たるエティエンヌ・アルムニエ<sup>38)</sup> が、余の上述の伴侶ならびにその他上記の者らが推した他の者らとともに、裁判、財務、内政一切の面で統治を行い、諸地方の統治その他を行う。余の上述の息子が未成年の間は、そのためあらゆる身分の役人らに委任すること。(Item, et afin de pourveoir au gouvernement de noz pays, terres et seignouries s'il advient que aillons de vie a trespas survivant n[ost]redit filz Charles conte de Charrolois et lui estant soubz aigié, voulo[n]s [/86] et ordonnons premierement au regard de la personne de n[ost]redit filz qu'il soit norry et alimenté durant le temps de sa minorité et jusques il soit en aige souffisant avec n[ost]re treschiere et tresamee compaigne la duchesse sa mere en noz pays, terres et seignouries [/87] et non ailleurs, et au regard du gouvernement d'iceux noz pays, terres et seignouries durant sadicte minorité, voulons et ordonnons que **n[ost]redicte compaigne** com[m]e premiere et principale et apres noz amez et feaulx **l'evesque de Tournay, l'arcevesque de** [/88] **Besancon** et **l'evesque de Cambray** qui a p[rese]nt sont, **le seign[eur] d'Authume n[ost]re chancelier**, mess[ire] **Anthoine seign[eur] de Croy et de Renty** n[ost]re cousin et premier chambellan, n[ost]re cousin et mareschal de Bourg[oin]ne mess[ire] **Jehan conte**<sup>39)</sup> **de Fribourg et de Neufchastel, le seign[eur] de Charny** [/89] et de Molinot, mess[ire] **Jehan de Croy** n[ost]re cousin et bailli de Haynnau, **les s[ire]s de Roubais et de Santes**, maistre **Jehan Bont** n[ost]re chancelier de Brabant, mess[ire] **Colard de Com[m]ines** n[ost]re souverain bailli de Flandres et maistre **Estienne Armenier**, president de noz parlemens [/90] de Bourgoingne, avecques autres tel ou telz que n[ost]redicte compaigne et les aut[re]s dess[us]nom[m]ez aviseront en aient le gouv[er]nement et administracion en tous cas tant en fait de justice, de finance, de police et gouvernement de pays que autrement, et d'y com[m]ettre officiers en [/91] tous estas durant la minorité de n[ost]redit filz.) [太字・下線は翻刻者。以下同様]

[33] 同じく、この余の当該遺言書の実現のために、余は、余のいと親愛なる伴侶たる公妃 [イザベル]<sup>40)</sup>、余の聴罪司祭たるいと畏敬すべきオセール司教<sup>41)</sup>、そしてその不在により同司教が務められない場合、余の上述の伴侶の聴罪司祭たるセリンブリア (現トルコのシリウリ) 司教<sup>42)</sup>、また、トゥルネ司教<sup>43)</sup>、ブザンソン大司教<sup>44)</sup>、余の上述の尚書オテューム領主ニコラ・ロラン<sup>45)</sup>、余の上述の従兄弟で評議官かつ筆頭侍従たるクロイおよびランティの領主アントワヌ<sup>46)</sup>、余の上述の従兄弟でブルゴーニュ元帥たるフリプールおよびヌシャテルの伯ジャン<sup>47)</sup>、上述のサント領主ユエグ (ユエ)・ド・ラノイ<sup>48)</sup>を、余の遺言執行人に選び任ずる。この上に名を挙げた者のうち、7名、6名ないしは5名に対し——そのうち余の上述の伴侶 [イザベル] がそこで主たる遺言執行人であることを望むが——、この伴侶、また同様に余の上述の聴罪司祭および尚書が意見を求めうる、ないしは、望む度にその都度、余は、この余の当該遺言つまり最終意志の命令をそのすべての各々の点において実際に然るべく執行するために、全権、権威および特別命令を与える。それ故に余は、すべての余の動産および何であれ余に帰属する動産負債をこの者らの手に置かれることを望み命じ、今後そのために置く。そして余の他界時にどこにあらうとそれらを差し押さえ、以下のように望む。即ち、余の他界後すぐに、それらが差し押さえられ、適正に調整された財産目録によって、この余の当該遺言書の実現のため物的で有形の占有を行い、かつ行わせる。そして、さらに余は以下のよ

うに望み命じる。即ち、余の上述の遺言執行人らは、余の上述の諸地方、土地、領主領のすべての定期金、利益および収入の半分を預かり、余の他界後すぐから、この余の当該遺言書がそのすべての点において完全に実現されるまで、直轄領であれ援助金（エド）であれ、通常の負担がそこから差し引かれる。この余の遺言執行人ら、つまり余の聴罪司祭たる上述のオセール司教に、余は一度に国王貨幣1,000Fの金額を、また、余の上述の伴侶の聴罪司祭たる上述のセリンブリア司教に一度に国王貨幣500Fの金額を、さらにその他の後に名を挙げた各々すべてに対し、余の思い出のため100サリュ金貨の金額までの宝石を遺贈する。そして余は以下のように望む。即ち、これら余の遺言執行人らは、その助言によってこの者らの中に1名ないしは2名の良き誠実なる者 (*bons preudom[m]es*) と、余の上述の〔遺言〕執行の収支を委ねるべくしっかりと勘定のできる者について意見し、後者は、然るべくしっかりと誠実な会計と未払い金の処理を行わなくてはならない。(Item, et pour l'accomplissement de cest n[ost]re p[rese]nt testament, nous eslisons et nom[m]ons noz executeurs n[ost]re treschiere et tresamee compaigne **la duchesse**, reverend pere en Dieu **l'evesque d'Aucerre** n[ost]re confesseur et en son absence et quant [/92] il n'y pourra vaquer reverend pere en Dieu **l'evesque de Salumbrie** confesseur de n[ost]redicte compaigne, **l'evesque de Tournay**, **l'arcevesque de Besancon**, n[ost]redit chancellier mess[ire] **Nicolas Rolin** seign[eur] d'Authume, n[ost]redit cousin conseiller et premier chambellan mess[ire] **Anthoine seign[eur]** [/93] **de Croy et de Renty**, n[ost]redit cousin et mareschal de Bourg[oin]ne mess[ire] **Jehan conte de Fribourg et de Neufchastel** et ledit mess[ire] **Hue de Lannoy seign[eur] de Santes**, ausquelz dessusnom[m]ez les sept, les six ou les cinq d'iceulx, dont voulons n[ost]redicte compaigne com[m]e principal y estre, tout[es] [/94] les fois qu'elle y pourra ou voudra entendre et pareillement nozdiz confesseur et chancellier, nous donnons plain povoir, aut[ori]té et mandement especial de mettre a execucion deus<sup>(9)</sup> cest n[ost]re p[rese]nt testament et ordonnance de darreniere volenté en tous et ch[asc]uns ses poins [/95] realment et de fait, et a ceste cause voulons et ordonnons estre mis, et desmaintenant pour lors mettons en leurs mains tous noz biens meubles et debtes mobiliars a nous apparten[ans] quelxconques et quelque part qu'il soient ou temps de n[ost]re decez les en [/96] saisissons et voulons que tantost apres n[ost]re decez ilz en soient saisis, et par bon et loial inventoire en preignent et facent prendre la reelle et corporelle detencion pour l'accomplissement de cest n[ost]re p[rese]nt testament, voulons en oultre et ordonnons que nosdiz [/97] executeurs aient et preignent la moitié de toutes les rentes, prouffiz et revenues de noz pays, terres et seignouries, les charges ordinaires deduites tant en demaine com[m]e en aides a com[m]encier tantost apres n[ost]re decez et continuer tant et si [/98] longuement que cest n[ost]re p[rese]nt testament soit en tous ses poins entierement accompli, ausquelz noz executeurs, c'est assavoir audit evesque d'Aucerre n[ost]re confesseur nous donnons et laissons la som[m]e de mil [= 1,000] frans monnoie roial pour une fois et [/99] audit evesque de Salumbrie confesseur de n[ost]redicte compaigne la som[m]e de cinq cens [= 500] frans monn[oie] roial pour une fois et a tous les autres apres nom[m]ez a ch[asc]un d'eulx ung joyau jusques a la som[m]e de cent [= 100] saluz d'or pour avoir memoire de nous [/100] et voulons que iceulx noz executeurs avisent entre eulx ung ou deux bons preudom[m]es a leur advis et gens bien receans ausquelz ilz com[m]ettent la recepte et despense de n[ost]redicte execucion et qui s[er]ont tenez d'en rendre bon et loial compte et reliqua la [/101] et ainsi qu'il appartendra.)

[34] 同じく、この余の当該遺言書ならびにこれの公表および執行を、余は、教会裁判権および世俗裁判権の管轄、つまりローマ教皇とローマ教皇庁の控訴院法廷、そしてまた国王殿とそのバリ高等法院の法廷の管轄に服し、以下のように望み同意する。即ち、余の他界後、余の上に名を挙げた遺言執行人らは、上述のローマ法廷、また、上述のバリ高等法院法廷の双方ないしはいずれかにこの者らの良かれと思われるように上述の管轄に服し得る。そして、上述の管轄に服することにより、余の相続人および継承者らとこれにかかわる他のすべての者らは、教会の譴責にも、物的執行にも、そして他にそれらにかかわりうる限り、上述のことすべての各々を承認、達成、実現するべきあらゆる願いによっても、拘束される。余の財産、諸地方、土地、領主領の大部分はこの〔フランス〕王国の外にあり、我が上述の国王殿の領主権と管轄の外にあるとはいえ、にもかかわらず余は以下のように望む。即ち、これらは、この余の当該遺言書に関する限り、他でもこれ以上でもなくその執行とそれに付随する事柄のため、上述の高等法院法廷の管轄に服する。また、上に名を挙げた余の遺言執行人らのなかに上述の執行を欲さずこれを務めない者あらば、あるいは、上述の執行が実現される以前に他界する者あらば、この場合、その者らの替わりに我が国王殿の上述の高等法院法廷により他の適任で有能な者を置き、代理とし、余の当該遺言書の執行は特別にその法廷に服する。(Item, et que cest n[ost]re p[re]sent testament et la publicacion et execucion d'icellui nous soubzmettons aux juridicions de l'egli[s]e et temporelle, c'est assavoir a n[ost]re saint Pere le pape et a l'audience de la Roe [= Rote] en court de Rom[m]e, et aussi a mons[eigneur] le [/102] roy et a sa court de parlement a Paris, voulans et consentans que apres n[ost]re decez noz executeurs dess[us]nom[m]ez puissent faire ladicte submission en la dicte court de Rom[m]e et aussi en ladicte court de parlement a Paris en toutes les deux ou en l'une d'icelles ainsi que bon leur [/103] semblera et que par vertu desd[ic]tes submissions noz heritiers et successeurs et tous autres a qui il pourra touchier soient contrains tant par la censure de l'egli[s]e com[m]e par execucion reelle et autrement par toutes votes deues a enteriner, fournir et accomplir toutes et ch[asc]unes [/104] les choses dessusd[ic]tes si et entant que touchier leur pourra, et non obstant que une grant partie de noz biens, pays, terres et seignouries soient hors de ce royaume et hors de la subjection et seignourie de mond[it]s[eigneur] le roy, laquelle chose non obstant voulons qu'ilz sortissent [/105] juridicion en ladicte court de parlement au regard et entant qu'il touche cest n[ost]re p[re]sent testament pour l'execucion d'icelluy et les deppenden[ces] d'icelle execucion et non autrement ne plus avant, et aussi voulons que se aucuns de noz executeurs dess[us]nom[m]ez ne p[ou]voient [/106] ou vouloient entendre<sup>50)</sup> et vaquer ou fait de la dicte execucion ou alassent de vie a trespas avant que ladicte execucion fust accomplie que en ce cas soient en leur lieu mis et subroguez autres ydonnes et souffisans par ladicte court de parlement de mons[eigneur] le roy [/107] a laquelle esp[eci]alment submettons l'execucion de n[ost]re p[re]sent testament.)

[35] 同じく、余が直系の嫡出相続人を遺すことなく他界すること、あるいは、余の上述の息子シャロレ〔伯〕が余の後に直系の嫡出相続人を遺すことなく他界することを主が望まれたならば、余の姉妹、甥、姪、従兄弟ないしは親族らに、余の諸地方、土地、領主領および財産が、相続され、その手に渡る。また、この余の当該遺言書のすべてないしは一部においてその執行と承認に対し異議ないしは妨害することを望むことあらば、この場合、これに異議ないしは妨害することを望む男、女、あるいは男女らは、余がその権利を剥奪・却下する。その場合、

今後余の上述の相続および財産から完全に権利を剥奪・却下され、異議を唱える者らないしは者の〔相続〕部分ないし取り分はこの余の遺言書の実現に実際同意することを望む余の上述の他の相続人ないしは相続人らのうちの一人ないしは複数の者に充当される。余の上述のすべての近親の相続人を欠いた場合、そしてその者らとその各々が余の上述の遺言書の執行に異論し妨害することを望む場合、余は以下のように望み命じる。即ち、余の上述の諸地方、土地、領主領は、この場合、さらに父兄血族関係 (*consanguini[té]*) の程度が遠ざかるにしても余の他の親族および従兄弟らの手に渡り相続される。この者らは、余の上述の遺言執行人らの請求に従い、実際にこの余の遺言書の実現を欲し、務めることを望むものである。この場合、つまり、当然の権利によって余の領主領および財産を相続することになるより近親のすべての余の相続人を欠く場合、余は以下のように望む。即ち、余の上述の遺言執行人らは、実際上述のようにこの余の遺言書の実現を欲し、余の上述の諸地方、土地および領主領を維持する能力のある有能な、余の他の親族および従兄弟らを一人ないしは幾名かを選出する。この場合、この者らが、余のすべての上述の諸地方、土地、領主領および財産における相続人かつ継承者らであることを望み命じ、その場合、その他の者らの諸権利を剥奪し、却下する。(Item et s'il avenoit que Dieu ne vueille que alassions de vie a trespas sans laisser hoir legitime, descendant de nous ou que n[ost]re dit filz de Charrolois trespasast apres nous sans laisser [/108] hoir legitime descendant de lui, et noz suers, neveux, nieces, cousins ou parens ausquelz succederoient et escherroient noz pays, terres, seignouries et biens, voulsissent contredire ou empeschier l'execucion et enterinement de cest n[ost]re p[rese]nt testament en tout ou en [/109] partie, en ce cas cellui, celle ou ceulx qui contredire ou empeschier le voudroient, nous privons et deboutons et voulons desmainten[ant] pour lors et deslors pour maintenant estre privez et deboutez entierement de n[ost]redicte succession et biens, et la part ou [/110] porcion des contredisans ou contredisant estre appliquee a celluy ou ceulx de nosdiz aut[re]s heritiers qui voudroit consentir par effect l'accomplissement d'icelluy n[ost]re testament, et en deffault de tous nozdiz prouchains heritiers et que eulx et ch[asc]un d'eulx [/111] voudroient contredire et empeschier l'execucion de n[ost]redit testament, voulons et ordonnons que nosdiz pays, terres et seignouries escheent et succedent en ce cas a noz autres parens et cousins pose qu'ilz soient en plus loingtain degre de consanguini[té] [/112], lesquelz ala requeste de nosdiz executeurs voudront entendre et vaquer par effect a l'accomplissement d'icellui n[ost]re testament, et en ce cas, c'est assavoir ou deffault de tous noz heritiers plus prouchains qui par raison devroient succeder en noz seignouries et [/113] biens, voulons que nosdiz executeurs puissent choisir et eslire ung ou plus[eur]s de noz autres parens et cousins puissans et souffisans pour tenir noz pays, terres et seignouries et qui vueillent entendre par effect com[m]e dit est a l'accomplissement de cest n[ost]re testament [/114] lesquelz en ce cas voulons et ordonnons estre noz heritiers et successeurs en tous noz diz pays, terres, seignouries et biens et en privons et deboutons les autres oudit cas.)

[36] 同じく、余は以下のように望み命じる。即ち、上述のように余がなすすべての各々の贈与および遺贈は、余の直轄領からいかなるものも贈与ないし移譲しないとの、余ないしは余の先代公らによる何らか新旧諸命令にもかかわらず、遺贈可能となる。そして同様に余が贈与を行うとしてかつて余がなした命令も、もしその文書が、この命を受けた余の幾名かの評議

官および侍従らの立ち会いのもと、余の書記官ジャン・イベールによる署名がなければ<sup>51)</sup>、効力のないものとする。そして、上述の事柄のその各々において執行および完全なる実現に対して申し立て主張した、他の何らかの命令、制約、令書ないしは禁令についても同様である。(Item, voulons et ordonnons que tous et ch[asc]uns les dons et legas p[ar] nous fais com[m]e dess[us] est [115] déclaré soient et devienrent baillables, non obstant quelzconques ordonnan[ces] anciennes ou nouvelles par nous ou noz predecess[eur]s f[ai]c[t]es de non donner ou alierer aucune chose de n[ost]re demaine, et mesmement l'ordonnance par nous nagueres f[ai]c[t]e que dons que [116] faisons ne soient valables se les l[ett]res ne sont signees par maistre **Jehan Hibert** n[ost]re secretaire et p[rese]ns certains noz conseillers et chambellans a ce ordonnez, et quelzconques autres ordonnan[ces], restruictions, mandemens ou deffen[ces] que l'en pourroit dire ou alleguer [117] a l'encontre de l'execucion et plain accomplissement des chos[es] dessusd[ic]tes a ch[asc]une d'icelles.)

[37] 同じく、余はまた以下のことを欲し望む。即ち、この余の当該命令は、そのすべての各々の点において、正式な口頭遺言の効力 (*force et vigueur*) を有する。あるいは少なくとも遺言補足書ないしは最終意志の命令、ないしはよりよき価値を有する他の効力を有する。そして君主たる余がそうなしうる限りあらゆる遺漏と厳粛性が補われる。この余の最終遺志が、全く侵害されることなくそのすべての各々の点において実現されることを望みながら、これを達成し実現するため、余は余のすべての各々の財産、動産および不動産を何であれ現在および未来において抑え、拘束し、抵当に置く。そして事実上ないしは法理上、また上述の事柄ないしはその一部に対し申し立て主張しうるといふ慣習上において、また同様に特別な放棄が先行することなく一般的な放棄は適用されないという法理において、一切のものを放棄する。そして以下のように望む。即ち、余の他界後、しかるべき形式で、しかるべく照合された真正なる印章のもと公表された文書ないしはこの謄本に、この当該原本同様に信頼が認められる。(Item, entendons et voulons aussi que ceste n[ost]re p[rese]nte ordonnance en tous et ch[asc]uns ses points ait force et vigueur de testament solennel et nu[n]cupatif ou au moins de codicille [118] ou ordonnance de darreni[er]e volenté ou autrement ainsi q[ue] mieulx valoir pourra, en suppleant par nous com[m]e prince si et entant q[ue] faire le povons toutes obmissions et solennité, voulans que ceste n[ost]re darreniere volenté soit entie[re]ment accomplie en [119] tous et ch[asc]uns ses points sans infraccion aucune, et a ce f[air]e fournir et accomplir submettons, obligons et ypothequons tous et ch[asc]uns noz biens, meubles et immeubles p[rese]ns et avenir quelxconques renonc[an]s a toutes choses tant de fait co[m]m]e de droit ou de [120] coustume que l'en pourroit dire ou alleguer a l'encontre des choses dessusdictes ou d'aucunes d'icelles, et mesmement au droit disant que general renonciacion ne vault se l'especial ne precede, et voulons que aux l[ett]res de publicacion ou vidimus de cestes qui [121] se feront apres n[ost]re decez en forme deue et soubz seel autentique coll[aci]onné com[m]e il appartient soit foy adjoustee com[m]e a ce p[rese]nt original.)

[跋] その証拠として、余は当該文書に余の印章を付し、余の手で下署した。都市ルテルにて、1441年12月8日に与えられる。この者とそれ自体から出た、正式な結婚による直系の相続人のために。(En tesmoing de ce, nous avons fait mettre n[ost]re seel a ces p[rese]ntes et icelles subscriptes de n[ost]re main. Donnée [122] en la ville de Rethel, le VIII<sup>e</sup> jour de decembre, l'an de

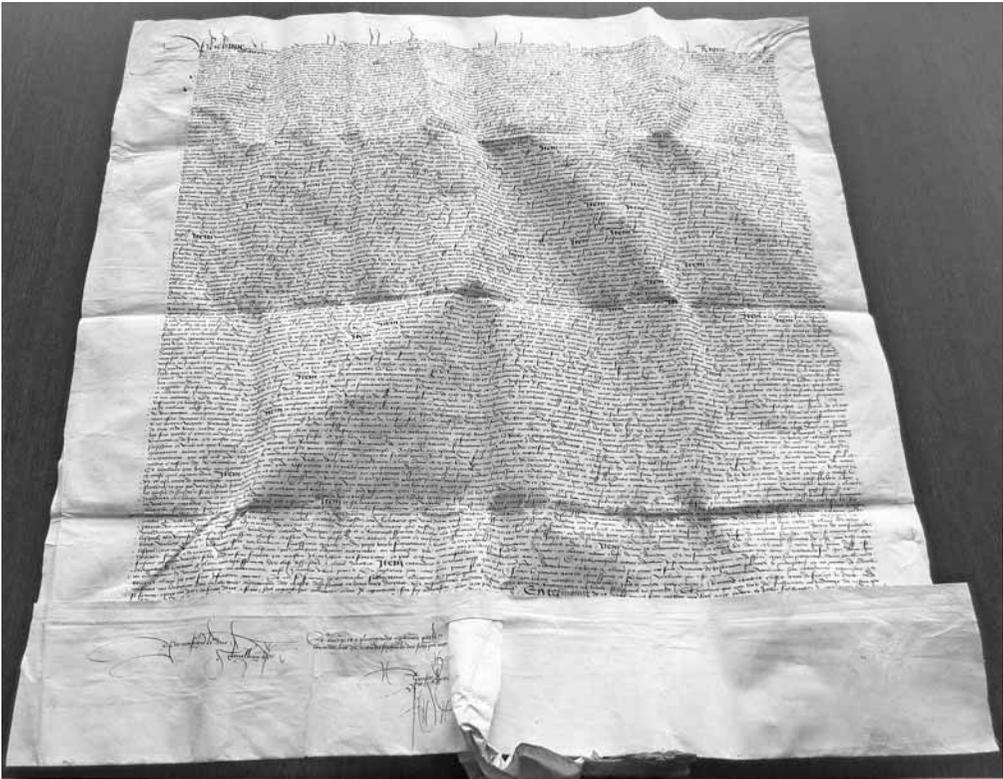
grace mil quatre cens quarante et ung, pour lui et les hoirs de son corps, descendans en droicte ligne et en loial mariage.)

[下署:] フィリップ。(PHE[LIPPE].)/[123]<sup>52)</sup>

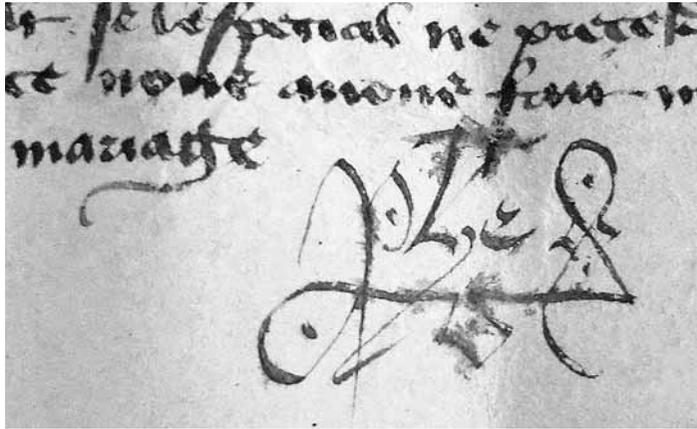
[折返し:] わが公殿により、[署名:] ブソォ<sup>53)</sup>。(Par monseign[eur] le duc, BOUESSEAU.)

[折返し (さらに):] これと同時にわが上述の公殿の命による正式な承認において、我により署名される。トロンソン (飾書)<sup>54)</sup>。(Et avecq[ue]s ce a plusgrande app[ro]bac[i]on par le [/] com[m]andeme[n]t de monditseign[eur] le duc, sign[é] par moy [/] TRONSON.)

羊皮紙複帯に赤蠟の大印章を付し、原本に基づいて照合される。(scellé d'un grand sceau en cire rouge pendant à double bande de parchemin. Collationné sur l'original.)



フィリップ・ル・ボンの第二遺言書（1441年）（ADN, B 456, no. 15764）※筆者撮影



フィリップ・ル・ボンの自署 « Phe » (同上。第二遺言書本文末尾) ※筆者撮影

### 註

- 1) 中堀博司「ブルゴーニュ公フィリップ・ル・ボンの第二遺言書(1441年)——前編——」『宮崎大学教育文化学部紀要(社会科学)』26・27、2012年、21-38頁。
- 2) 以下、詳細については、史料訳の際に付した註記を参照のこと。
- 3) 第3代公フィリップの非嫡出子については、中堀博司「クレーヴェとポルトガル——ブルゴーニュ公家の婚姻政策に関する覚書——」『宮崎大学教育文化学部紀要(社会科学)』28、2013年、1-29頁、5-6頁、を参照のこと。
- 4) Archives départementales du Nord (Lille) [= ADN], B 456, no. 15764 ; PEIGNOT, G., *Choix de Testaments anciens et modernes, remarquables par leur importance, leur singularité, ou leur bizarrerie, avec des détails historiques et des notes*, Paris, Renouard ; Dijon, V. Lagier, 1829, t. 1, p. 102-114. なお、前編同様にG.ベニヨの部分的な翻刻を参照したが、表記に関しては若干の補正を行った。
- 5) フランシスコ会修士がイェルサレムのシオン山に定着したのは、1335年から1337年までの間とされる。同条項については、J.パヴィオによる言及がある。BALARD, M., *Les Latins en Orient (Xe-XVe siècle)*, Paris, PUF, 2006, p. 373 ; PAVIOT, J., *Les ducs de Bourgogne, la croisade et l'Orient (fin XIVe siècle-XVe siècle)*, PU de Paris-Sorbonne, 2003, p. 88.
- 6) 以下、前編同様に本文中の行番号をこのように示す。例えば、[58]はここまでが本文58行目であることを示している。
- 7) コルネイユ(1420頃-1452年)。第3代公フィリップの非嫡出子の中で最年長者として知られている。都市ヘントとのルペルモンデ(Rupelmonde)の戦いで1452年に早世した。存命であれば、金羊毛騎士団員にも選出されていたと思われる。SOMMÉ, M., *Isabelle de Portugal, duchesse de Bourgogne. Une femme au pouvoir au XVe siècle*, Villeneuve d'Ascq, PU du Septentrion, 1998, p. 65-67. 中堀「クレーヴェとポルトガル」5-6頁。
- 8) アントワーン(1421-1504年)。第3代公の非嫡出子で、俗に「グラン・バートル(大庶子殿)」(le Grand Bâtard)と呼ばれる。ド・ラ・ロッシュ(de la Roche)伯、ベフェレン(Beures / Beveren)ほか領主。雉の誓いの宴(1454年)に参加し、1464年にはポルトガル救援のためのセウタ(Ceuta)遠征で指揮を執った。DE SMEDT, R. (dir.), *Les Chevaliers de l'Ordre de la Toison d'or au XVe siècle. Notices bibliographiques*, 2e éd., Frankfurt am Main etc., 2000, p.129-131, no. 54 ; SOMMÉ, *Isabelle de Portugal*,

- p. 65-66, 68-69. 中堀「クレヴェとポルトガル」5-6、23頁。
- 9) マリ／マリオン (1428頃-)。第3代公の非嫡出女子で、1447年にブルゴーニュ地方の最有力家臣シャルニイ(Charny)伯ピエール・ド・ボフルモン(Pierre de Bauffremont)と結婚した。マリは、結婚するまでブルゴーニュ宮廷において公嫡子(腹違いの弟)シャルルの許婚である同年のフランス王女に随伴した。DE SMEDT (dir.), *Les Chevaliers de l'Ordre*, p. 45-47, no. 20 ; SOMMÉ, *Isabelle de Portugal*, p. 65-68. 中堀「クレヴェとポルトガル」5-6、22頁。
- 10) PEIGNOT, *Choix de Testaments*, p. 108. 前編同様に、「同じく」以下の文言が、ベニヨ『遺言書選集』108頁に部分的に翻刻されていることを以下のように示しておく。
- 11) 第26条項のブラバント総収入役ピエール・デュ・シェーヌ(Pierre du Chesne / van der Eycken)の許にいる非嫡出女子と、次の第27条項のフランドルにいる非嫡出女子は、ともに第25条項に見られるマリ(マリオン)のように名が特定されていない。はっきりしたことは言えないが、うち一人はピカルディのピキニイ(Picquigny)領主ジャン・ダイイ(Jean d'Ailly)と結婚したヨランド(Yolande)、もう一人は初婚でネーデルラント貴族アドリアン・ファン・ボルセレン(Adrian van Borselen)と、さらに再婚でラーフェンシュタイン(Ravenstein)領主アドルフ・ド・クレヴェ(Adolphe de Clèves)と結婚したアンヌ(Anne)である可能性は高い。VAUGHAN, R., *Philip the Good. The Apogee of Burgundy*, London, Longman, 1970 (new ed., Woodbridge, Boydell, 2002), p. 134-135 ; DE SMEDT (dir.), *Les Chevaliers de l'Ordre*, p. 131-134, no. 55.
- 12) 前註参照。
- 13) 金羊毛騎士団は、1430年に公フィリップがポルトガル王女イザベルと再々婚した際に創設された騎士団である。差し当たり以下を参照。DE SMEDT (dir.), *Les Chevaliers de l'Ordre* ; DE GRUBEN, Fr., *Les chapitres de la Toison d'or à l'époque bourguignonne (1430-1477)*, Leuven, Leuven UP, 1997.
- 14) PEIGNOT, *Choix de Testaments*, p. 121, n. C.
- 15) ドル大学は、1423年に公フィリップが創設したブルゴーニュ公国における最初の大学である。同公国には、後に併合されたブラバント公領にルーヴァン大学(1426年創設)も存在するが(但し、公国併合以前の創設)、本遺言書に後者についての言及はない。ドル大学については、差し当たり以下を参照。THEUROT, J., *Dole, genèse d'une capitale provinciale des origines à la fin du XV<sup>e</sup> siècle. Les structures et les hommes*, Dole, 1998, 2 vol., v. I, p. 479-523 ; v. II, p. 1129-1133.
- 16) PEIGNOT, *Choix de Testaments*, p. 109.
- 17) PEIGNOT, *Choix de Testaments*, p. 109, n. 1.
- 18) PEIGNOT, *Choix de Testaments*, p. 110.
- 19) PEIGNOT, *Choix de Testaments*, p. 121-122, n. D.
- 20) ニコラ・ロラン(Nicolas Rolin)(1376-1462年)、第3代公尚書(1422-1462年)。オテューム(Authume)領主。COCKSHAW, P., *Le personnel de la chancellerie de Bourgogne-Flandre sous les ducs de Bourgogne de la maison de Valois (1384-1477)*, Kortrijk-Heule, 1982, p. 44-50 ; GAUDE-FERRAGU, M., *Métamorphoses testamentaires. Les dernières volontés de Philippe le Bon, duc de Bourgogne (1426 ; 1441)*, dans KASTEN, B. (hg.), *Herrscher- und Fürstentestamente im westeuropäischen Mittelalter*, Köln, Böhlau, 2008, p. 457-486, p. 484.
- 21) PEIGNOT, *Choix de Testaments*, p. 122, n. E.
- 22) PEIGNOT, *Choix de Testaments*, p. 111.
- 23) オランジュ(Orange)公ルイ・ド・シャロン(Louis de Chalon)(1390頃-1463年)。ブルゴーニュ伯領での諸権利をめぐる事件については、以下を参照。中堀博司「中世後期ブルゴーニュ公国南部における諸侯直轄領の管理——サランの封＝ラントをめくって——」『法制史研究』53、2004年、1-46頁。
- 24) SOMMÉ, *Isabelle de Portugal*, p. 421.
- 25) 公妃イザベル・ド・ポルトガル(Isabelle de Portugal)(1397-1471年)。

- 26) ジャン・シュヴロ (Jean Chevrot) (1380/1400頃-1460年)、トゥルネ (Tournai) 司教 (在位1438-1460年)。公の評議官にして評議会議長 (1433-1456年)。VAN EECKENRODE, M., *Le testament de Jean Chevrot, président du conseil de Philippe le Bon, évêque de Tournai (1438-1460), enfant de Poligny*, *Archives et manuscrits précieux tournaisiens*, 3, 2009, p. 7-34 ; HOURS, H. / BOUYÉ, Ed. / MILLET, H., *Fasti ecclesiae gallicanae. Répertoire prosopographique des évêques, dignitaires et chanoines de France de 1200 à 1500*, t. IV, *Diocèse de Besançon*, Turnhout, Brepols, 1999, p. 151, no. 531 ; DHIP-0736 (在パリ・ドイツ歴史研究所 (Deutsches Historisches Institut Paris = DHIP. <http://www.dhi-paris.fr/fr/home.html>) のデータベース「プロゾボグラフィア・ブルグンディカ」のID番号0736、を指す。以下同様)。
- 27) カンタン・メナル (Quentin Ménart) (1462年没)、ブザンソン (Besançon) 大司教 (在位1439-1462年)。公の筆頭書記官 (1421-1426年)、公の訴願審査官 (1427-1449年)。REY, M. (dir.), *Les diocèses de Besançon et de Saint-Claude*, Paris, Beauchesne, 1977, p. 294 ; HOURS / BOUYÉ / MILLET, *Fasti ecclesiae gallicanae. Diocèse de Besançon*, p. 70-71, no. 23 ; COCKSHAW, P., *Prosopographie des secrétaires de la cour de Bourgogne (1384-1477)*, Ostfildern, Thorbecke, 2006, p. 64-67, no. 63 ; DHIP-0030.
- 28) ジャン・ド・ブルゴーニュ (Jean de Bourgogne) (1404頃-1479/80年)、カンブレ (Cambrai) 司教 (在位1440-1479年)。第2代公ジャン・サン・プールの非嫡出子 (フィリップ・ル・ボンの異母弟)。DHIP-0695.
- 29) 上掲註20参照。
- 30) アントワース・ド・クロイ (Antoine de Croy) (1402頃-1475年以後)、第3代公筆頭侍従 (1426/28-1458年)。CARON, M.-Th., *La noblesse dans le duché de Bourgogne (1315-1477)*, Lille, PU de Lille, 1987, p. 137 ; DE SMEDT (dir.), *Les Chevaliers de l'Ordre*, p. 34-38, no. 15 ; DHIP-0228.
- 31) フリブール (Fribourg) およびヌシャテル (Neufchâtel) 伯ジャン、ブルゴーニュ元帥 (1440-1443年)。SCHNERB, B., « *L'Honneur de la Maréchaussée* », *maréchalat et maréchaux en Bourgogne des origines à la fin du XVe siècle*, Turnhout, Brepols, 2000, p. 74-76, 199 ; DHIP-0568.
- 32) シャルニイ領主 (のち伯) ビエール・ド・ボフルモン (Pierre de Bauffremont) (1397頃-1472年)。ブルゴーニュ公領において最も有力で、公フィリップの信任が厚かった家臣。金羊毛騎士団創設時メンバーの一人。公フィリップの非嫡出女子マリ (マリオン) と1447年に結婚。DE SMEDT (dir.), *Les Chevaliers de l'Ordre*, p. 45-47, no. 20 ; DHIP-0321. 中堀「クレージュとポルトガル」6頁。
- 33) ジャン・ド・クロイ (Jean de Croy) (1403頃-1473年)、エノー・大パイイおよび総守備隊長 (1434年)。註30のアントワースはその兄。DE SMEDT (dir.), *Les Chevaliers de l'Ordre*, p. 48-50, no. 22 ; DUBOIS, H., *Charles le Téméraire*, Paris, Fayard, 2004, p. 68-69.
- 34) ルベ (Roubaix) 領主ジャン (1369頃-1449年)、第3代公筆頭侍従 (1419-1426/28年)。DE SMEDT (dir.), *Les Chevaliers de l'Ordre*, p. 6-8, no. 3 ; DHIP-4881.
- 35) サント (Santes) 領主ユグ (ユエ)・ド・ラノイ (Hugues / Hue de Lannoy) (1384-1456年)、公の評議官にして侍従。特に外交官として活躍。DE SMEDT (dir.), *Les Chevaliers de l'Ordre*, p. 14-17, no. 7 ; DHIP-0319.
- 36) ジャン・(ド・) ボン (ヤン・ファン・ボント／ボンティウス) (Jean de Bont / van Bontius) (1382頃-1453年)、ブラバント尚書 (1427-1429, 1431-1445年)。*Biographie nationale*, publ. par l'Académie royale des sciences, des lettres et des beaux-arts de Belgique, Bruxelles, H. Thiry van Buggenhoudt, 1866-1986, 44 vol., t. 2, col. 689-693, article : BONT (Jean DE ou VAN), BONTIUS ; GODDING, Ph., *Le Conseil de Brabant sous le règne de Philippe le Bon (1430-1467)*, Bruxelles, Académie royale de Belgique, 1999, p. 47, 72, 79-81.
- 37) コラル 2世・ド・ラ・クリト／コミース (Colard II de la Clyte / dit de Comines)、フランドル高等パイイ (1435年-)。兄ジャンは金羊毛騎士団の当初メンバーの一人。息子フィリップはフランス王家側について著名な年代記者。DE SMEDT (dir.), *Les Chevaliers de l'Ordre*, p. 17-21, no. 8.
- 38) エティエンヌ・アルムニエ (Estienne Armenier)。父ギイもブルゴーニュ伯領で傑出した法曹であり、

バイイ他の肩書でドル高等法院に1405年、1413年、1422年に参席している。父を継いだエティエンヌは、1436年、1440年、1451年に開廷された同高等法院で議長を務めた。THEUROT, *Dole, genèse d'une capitale*, v. II, p. 1127-1129.

- 39) PEIGNOT, *Choix de Testaments*, p. 112.
- 40) 公妃イザベル。上掲註25参照。
- 41) ロラン・ピニオン (Laurent Pignon)、第3代公聴罪司祭 (1412-1449年)、ベツレヘム (Bethléem) 司教 (1423-1433年)、オセール (Auxerre) 司教 (1433-1449年)。同公の第一遺言でも遺言執行人として名を列ねた公の側近中の側近。SCHNERB, B., *La piété et les dévotions de Philippe le Bon, duc de Bourgogne (1419-1467)*, *Comptes-rendus des séances de l'Académie des Inscriptions et Belles-Lettres*, 149e année, no. 4, 2005, p. 1319-1344, p. 1323, n. 23 ; SOMMÉ, *Isabelle de Portugal*, p. 63 ; GAUDE-FERRAGU, *Métamorphoses testamentaires*, p. 483-484. 中堀「第二遺言書 (前編)」24頁。
- 42) シモン・ド・ルース (Simon de Loos)、第3代公妃聴罪司祭 (1433-1444年)、時に第3代公聴罪司祭代行 (1439-1449年)。セリンブリア (Selymbria) 司教 (1439-1461年)。SCHNERB, *La piété et les dévotions*, p. 1323, n. 23.
- 43) 上掲註26参照。
- 44) 上掲註27参照。
- 45) 上掲註20参照。
- 46) 上掲註30参照。
- 47) 上掲註31参照。
- 48) 上掲註35参照。
- 49) PEIGNOT, *Choix de Testaments*, p. 113.
- 50) PEIGNOT, *Choix de Testaments*, p. 114.
- 51) ジャン・イベール (Jean Hibert)、公の書記官。COCKSHAW, *Prosopographie des secrétaires*, p. 51-52, no. 44 ; p. 151, no. 352.
- 52) 前編において、本遺言書の本文自体が「122行」に及ぶとしたが、「123行」の誤りであり、ここに修正する。中堀「第二遺言書 (前編)」22頁。
- 53) トマ・ブソ (Thomas Bouesseau / Boisseau / Bonesseau)、公の書記官。COCKSHAW, *Prosopographie des secrétaires*, p. 25-27, no. 9 ; p. 148, no. 318.
- 54) ジャン・トロンソン (Jean Tronson / Trouson / Trousson)、公の書記官。COCKSHAW, *Prosopographie des secrétaires*, p. 95-96, no. 98.

[付記] 本稿の前編を公刊後、史料訳について河井田研朗先生より極めて貴重なご教示を賜った。記して謝意を表したい。